

(仮訳)

2008年7月31日

ジョイント・フォーラムが「信用リスク移転」に関するペーパーを公表

ジョイント・フォーラムは本日、「信用リスク移転 (2005年から2007年にかけての動向)」と題するペーパーの最終版を公表した。

本年5月にロンドンとニューヨークにおいて、ジョイント・フォーラムの代表者は市場参加者と会合を持ち、市中協議ペーパーについてのコメントを直接受け取った。これらコメントそしてジョイント・フォーラム事務局に直接送付されたものは、本ペーパーの結論を概ね支持するものであった。市中協議プロセスを経てペーパーに加えられた変更は僅かであるが、これによって最終版はより完成度の高いものとなった。

ジョイント・フォーラム議長及び米国通貨監督庁長官であるジョン・C・デューガン (John C. Dugan) 氏は、本日、以下のように発言した。「本ペーパーは、信用市場の混乱要因について理解を深める上で、大いに役立つものである。本ペーパーにおいて特に注目し値するものは、信用リスクを移転するために広く用いられるようになった2つの金融商品、資産担保証券 (ABS) を参照する債務担保証券 (ABS CDOs) および貸出担保証券 (CLOs) に焦点が当てられていることである。」また、同氏は、「市場の混乱要因を理解することは極めて重要であるが、市場参加者は、市場及び金融機関のストレス耐性を強めるため、今後どのような行動をとるべきかについても鋭意検討すべきである。この点について、本ペーパーは全ての市場参加者を対象として幾つかの新たな提言を行なっている。それらは、ジョイント・フォーラムが2005年に『信用リスク移転』の中で行なった提言を補うものであり、全ての市場参加者に対し、これらの提言を実施することを勧奨する。ジョイント・フォーラムは、市場参加者による提言の実施状況を評価するため、2009年に調査を行なう。」と付言した。

本ペーパーは、信用リスク移転市場の継続的拡大と急速な革新を背景に、2007年3月に金融安定化フォーラム (以下FSF) より、2005年3月にジョイント・フォーラムが公表したペーパー「信用リスク移転 (CRT)」にどの程度改訂の必

要が生じたかを検討するよう依頼を受けたことを契機として改訂作業が開始された。これは、2007年夏に始まった市場混乱の発生以前から進められていたものの、市場混乱に関するFSFの取り組みを支援するためのジョイント・フォーラムの重要な貢献として前倒しされ、2008年3月のFSF会合に提出された。

本ペーパーは、国際決済銀行（BIS）（<http://www.bis.org>）、証券監督者国際機構（IOSCO）（<http://www.iosco.org>）および保険監督者国際機構（IAIS）（<http://www.iaisweb.org>）の各ウェブサイト上で閲覧することができる。

ジョイント・フォーラムは、バーゼル銀行監督委員会（BCBS）、IOSCO及びIAISにより1996年に設立され、金融コングロマリットの監督をはじめ銀行・証券・保険部門に共通する問題に取り組んでいる。